実務経験のある教員等による

授業科目のシラバス

栄養学科

科　目　名	臨床栄養学Ⅰ				
担当教員名	武部　久美子				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	食品衛生：科目Ｂ
実務経験及び授業内容	病院管理栄養士として臨床経験のある教員が臨床現場での管理栄養士としての役割を指導する科目				
学習到達目標	臨床栄養管理における管理栄養士の役割を学ぶ。 1　臨床における管理栄養士の役割について理解する。 2　管理栄養士が実践する臨床栄養管理について説明できる。 3　各疾患における「栄養代謝の特徴」を理解し、栄養食事療法について説明できる。				
授業の概要	傷病者に対する療養のために必要な「栄養の指導」および「栄養ケア」など、臨床栄養学の基本について学ぶ。				
授業の計画	1　ガイダンス　/　臨床栄養学とは 2　臨床における管理栄養士の役割 3　傷病者に対する栄養管理とは 4　臨床における栄養管理の実際 5　疾病別栄養食事療法①　ナトリウムコントロール食 6　疾病別栄養食事療法②　ナトリウムコントロールと食事療法の実際 7　疾病別栄養食事療法③　エネルギーコントロール食 8　疾病別栄養食事療法④　エネルギーコントールと食事療法の実際 9　疾病別栄養食事療法⑤　易消化食 10　疾病別栄養食事療法⑥　易消化食と食事療法の実際 11　疾病別栄養食事療法⑦　脂質コントロール食 12　疾病別栄養食事療法⑧　脂質コントロールと食事療法の実際 13　疾病別栄養食事療法⑨　たんぱく質コントロール食 14　疾病別栄養食事療法⑩　たんぱく質コントロールと食事療法の実際 15　臨床における栄養ケアの実際				
授業の留意点	【準備学習（予習・復習）等の内容と分量】 各授業前に、1－2時間程度の準備学習を要する。 各授業終了後に、1－2時間程度の復習を要する。 【その他の留意点】 臨床栄養学では、解剖生理学、基礎栄養学、食品学など専門基礎・専門科目のすべての教科と関連している。従って、1年次に学んだ教科については十分に復習した上で、授業に臨むこと。				
学生に対する評価	【定期試験65点、課題10点、ミニテスト20点、受講参加態度5点】 詳細な評価基準は開講時に提示する。				
教科書（購入必須）	1　佐藤和人他「エッセンシャル臨床栄養学」医歯薬出版 2　日本糖尿病学会編「糖尿病治療ガイド　2018-2019｝　文光堂				
参考書（購入任意）	開講時に参考文献等を提示する。				

科　目　名	臨床栄養学実習Ⅰ				
担当教員名	武部　久美子・氏家　志乃				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	病院管理栄養士として臨床経験のある教員が疾患治療の一環としての栄養食事法を指導する科目				
学習到達目標	臨床栄養管理の実践的スキルのうち、疾患治療の一環としての栄養食事療法の基本を理解する。 ①栄養食事療法の必要性について説明できる。 ②病院食提供の基本が理解できている。 ③疾患の特徴を理解し、特別治療食の献立作成・供食が出来る。 ・ナトリウムコントロール食の献立が作成できる。 ・エネルギーコントロール食の献立が作成できる。 ・易消化食の献立が作成できる。 ・脂質コントロール食の献立が作成できる。 ・たんぱく質コントロール食の献立が作成できる。 ・献立展開技法について説明できる。				
授業の概要	治療の一環として実践される栄養食事療法の基本について学ぶ。 特別治療食として活用される場面の多いナトリウムコントロール食、エネルギーコントロール食、易消化食、脂質コントロール食、たんぱく質コントロール食について学ぶ。 各食事療法について、献立の作成および治療食の供食の演習・実習を通じて理解を深める。				
授業の計画	1　ガイダンス　/　栄養食事療法の実践に必要なスキル 2　栄養食事療法の基本①　病院食提供の実際 3　栄養食事療法の基本②　一般治療食献立の実際 4　栄養食事療法の基本③　特別治療食献立の実際 5　ナトリウムコントロール食①　献立の設計 6　ナトリウムコントロール食②　治療食の供食 7　エネルギーコントロール食①　献立の設計 8　エネルギーコントロール食②　治療食の供食 9　易消化食①　献立の設計 10　易消化食②　治療食の供食 11　脂質コントロール食①　献立の設計 12　脂質コントロール食②　治療食の供食 13　たんぱく質コントロール食①　献立の設計 14　たんぱく質コントロール食②　治療食の供食 15　医療機関における治療食提供の実際　献立展開技法				
授業の留意点	【準備学習（予習・復習）等の内容と分量】 各授業前に、1－2時間程度の準備学習を要する。 各授業終了後に、1－2時間程度の復習を要する。 【その他の留意点】 授業毎に課せられる課題は、栄養食事療法をより深く理解するために重要である。授業終了後に復習をしながら速やかに課題に取り組むことが望ましい。 返却された課題を見直し復習して理解を深めること。				
学生に対する評価	定期試験（50点）、課題レポート（40点）、実習参加態度（10点） 詳細については授業の際に説明する。				
教科書（購入必須）	1「栄養食事療法の実習　栄養ケアマネジメント第11版」医歯薬出版株式会社 2.「日本食品標準成分表2015年版(七訂)追補2017」文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会報告 3「日本人の食事摂取基準2015年版」 4「糖尿病食事療法のための食品交換表」 5「腎臓病食品交換表」 6 臨床栄養学Ⅰで指定した教科書 それぞれの最新版使用				
参考書（購入任意）	開講時に参考文献等を提示する。				

科　目　名	臨床栄養学実習Ⅱ				
担当教員名	氏家　志乃				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	実習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	病院管理栄養士として臨床経験のある教員が臨床栄養管理の実践スキルについて指導する科目				
学習到達目標	臨床栄養管理の実践的スキルについて学ぶ。疾患治療の一環としての栄養食事療法の基本を理解する。 ①各種疾患の栄養食事療法の特徴を説明できる。 ②疾患の特徴を理解し、特別治療食の献立作成・供食が出来る。 ③栄養ケアマネジメントについて説明できる。 ④栄養スクリーニング、栄養アセスメントの方法が説明できる ⑤傷病者に対する栄養ケアプランのたて方を説明できる				
授業の概要	治療の一環として実践される栄養食事療法の基本について学ぶ。 メタボロックシンドローム、食物アレルギー、先天性代謝異常など様々な疾患の栄養食事療法のスキルを習得する。 臨床場面で実践されている栄養ケアマネジメントの方法を習得する。				
授業の計画	1　たんぱく質コントロール食（Ｐｒ40ｇ）①　献立の設計 2　たんぱく質コントロール食（Ｐｒ40ｇ）①　治療食の供食 3　医療機関における治療食提供の実際　献立展開の演習 4　メタボリックシンドローム　栄養食事療法①　脂質異常症　献立の設計 5　鉄欠乏性貧血　骨粗しょう症　献立の実際 6　食物アレルギー食　献立の実際 7　メタボリックシンドローム　栄養食事療法②　高尿酸血症　肥満症 8　医療機関における治療食提供の実際　展開献立の実習 9　摂食嚥下障害患者への栄養ケアの実際① 10　摂食嚥下障害患者への栄養ケアの実際② 11　先天性代謝異常症患者の献立の実際 12　栄養ケアマネジメント①　栄養スクリーニング 13　栄養ケアマネジメント②　栄養アセスメント（問診・聞き取り） 14　栄養ケアマネジメント③　栄養アセスメント（身体計測、血液生化学検査） 15　栄養ケアマネジメント④　栄養ケアプランの実際				
授業の留意点	【準備学習（予習・復習）等の内容と分量】 各授業前に、1－2時間程度の準備学習を要する。 各授業終了後に、1－2時間程度の復習を要する。 【その他の留意点】 授業毎に課せられる課題は、栄養食事療法をより深く理解するために重要である。授業終了後、復習をしながら速やかに課題に取り組むことが望ましい。 返却された課題を見直し復習を行い理解を深めること				
学生に対する評価	定期試験（50点）、課題レポート（40点）、実習参加態度（10点） 詳細については授業の際に説明する				
教科書（購入必須）	1「栄養食事療法の実習　栄養ケアマネジメント第11版」医歯薬出版株式会社 2.「日本食品標準成分表2015年版(七訂)追補2017」文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会報告 3「日本人の食事摂取基準2015年版」 4「糖尿病食事療法のための食品交換表」 5「腎臓病食品交換表」 6 臨床栄養学Ⅰで指定した教科書 それぞれの最新版使用 教科書は「臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ」、「臨床栄養学実習Ⅰ」で指定したものを主に使用する。				
参考書（購入任意）	開講時に、参考文献等を提示する。				

科　目　名	臨床栄養学実習Ⅲ				
担当教員名	武部　久美子・氏家　志乃				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	病院管理栄養士として臨床経験のある教員が傷病者への適切な栄養ケア提供の為の技術と知識を指導する科目				
学習到達目標	傷病者の病態を理解し、栄養状態評価して適切な栄養ケアの実施に向けての技術習得を目的とする。医療機関で実際に行われている栄養管理を想定し実践的なスキルを習得する。 1.各疾患の栄養ケアの特徴が理解できる。 2.疾患の特性に応じた栄養ケアプランが作成できる。				
授業の概要	二年次に授業で学んだ知識を統合し、症例検討を通して臨床場面での応用力を身に着けていく。グループワークを通じて栄養ケア・マネジメントおよびチーム連携のあり方について学び、管理栄養士に必要なスキルを習得する。				
授業の計画	1　栄養ケア・マネジメントの実際①モニタリング、評価 2　栄養ケア・マネジメントの実際②栄養ケアプランの作成 3　栄養ケア・マネジメントの実際③栄養管理実施報告書の作成 4　栄養指導の展開①糖尿病の症例検討 5　栄養指導の展開②糖尿病合併症の症例検討 6　栄養指導の展開③高血圧症・脂質異常症の症例検討 7　栄養指導の展開④集団栄養指導のプランニング 8　肝硬変患者への栄養食事療法の実際 9　栄養指導の展開⑤慢性腎臓病の症例検討 10　傷病者への栄養補給法 11　クローン病患者への栄養食事療法の実際 12　高齢者に対する栄養ケア　褥瘡の症例検討 13　消化器ガン患者への栄養食事療法の実際 14　栄養指導の展開⑤集団栄養指導のプレゼンテーション 15　医療機関における栄養管理実務の実際				
授業の留意点	準備学習（予習・復習）等の内容と分量】 各授業前に、1－2時間程度の準備学習を要する。 各授業終了後に、1－2時間程度の復習を要する。 【その他の留意点】 授業毎に課せられる課題は、栄養食事療法をより深く理解するために重要である。授業終了後、復習をしながら速やかに課題に取り組むことが望ましい。 返却された課題を見直し復習を行い理解を深めること				
学生に対する評価	実習記録物、課題レポート、確認テスト、実習への取り組み状況により、実習目標の到達度を総合的に評価する。 【実習記録物・課題レポート55点、確認テスト30点、実習への取り組み状況15点】				
教科書（購入必須）	新しい臨床栄養管理第3版（医歯薬出版）				
参考書（購入任意）	開講時に、参考文献等を提示する。				

科　目　名	臨床栄養学実習Ⅳ				
担当教員名	武部　久美子・氏家　志乃				
学年配当	4年	単位数	1単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	病院管理栄養士として臨床経験のある教員が学修した知識・技術・態度の統合について指導する科目				
学習到達目標	臨床栄養学領域で学修した知識・技術・態度の統合と発展をはかる。 1　医療における管理栄養士の専門性について理解し説明できる。 2　地域包括ケアにおける課題を理解し、栄養ケアの重要性と管理栄養士の役割について説明できる。 3　傷病者の治療上、栄養学上の課題をアセスメントし、対象の特性に応じた栄養ケアプランが作成できる。				
授業の概要	三年次までに習得した臨床栄養学の知識・スキルを踏まえ、臨床現場におけるより詳細な知識・スキルを学び取る。 在宅訪問栄養食事指導、クローン病、血液透析療法についてはゲストスピーカより特別講義を受ける。 クリティカルケア、特定健診・保健指導など、より専門性の高い内容について学習する。				
授業の計画	1　ガイダンス／社会環境の変化と求められる栄養ケアのあり方 2　臨床で求められる栄養ケア・ケアマネジメント① 3　臨床で求められる栄養ケア・ケアマネジメント② 4　介護保険と高齢者における栄養ケアの実際 5　在宅訪問栄養食事指導の実際 6　クローン病の栄養食事療法の実際 7　クローン病の病態と栄養ケアの実際 8　慢性腎不全患者への栄養食事療法 9　末期腎不全の病態と透析療法 10　生活習慣病複合疾患の栄養食事指導 11　肝硬変患者への栄養食事療法の実際 12　周術期の栄養ケアの実際 13　摂食嚥下障害と嚥下調整食の実際 14　老年期の栄養ケアのあり方 15　傷病者に対する栄養補給の実際				
授業の留意点	【準備学習（予習・復習）等の内容と分量】 各授業前に、1－2時間程度の準備学習を要する。 各授業終了後に、1－2時間程度の復習を要する。 【その他の留意点】 授業毎に課せられる課題は、栄養食事療法をより深く理解するために重要である。授業終了後、復習をしながら速やかに課題に取り組むことが望ましい。 返却された課題を見直し復習してスキルアップに心がけ、臨床管理のスキル習得に主体的に取り組むこと。				
学生に対する評価	定期試験（50点）、課題レポート（40点）、実習参加態度（10点） 詳細は授業内で説明する。				
教科書（購入必須）	臨床栄養学実習　傷病者の栄養管理プロセス演習　医歯薬出版株式会社				
参考書（購入任意）	開講時に、参考文献等を提示する。				

科　目　名	給食経営管理論実習Ⅱ				
担当教員名	市川　晶子				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	特定給食施設において、施設の管理栄養士の指導のもと給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関する知識及び技術を学ぶ。				
学習到達目標	給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する知識および技術を修得する。				
授業の概要	学外の特定給食施設において、学内の講義、実習で学んだ知識や技術をもとに給食運営の実務について学ぶ。 特定給食施設における管理栄養士の専門性、給食の運営において実際に起こる事柄に対する問題解決法などを実践的に学ぶ。				
授業の計画	以下の内容を中心に、各実習施設の実習プログラムに基づいて実施される。 1　実習施設の組織・運営について 2　特定給食施設の目的、役割、特性について 3　給食経営管理システムについて 1)栄養・食事管理、経営管理について 2)食材管理、調理作業管理について 3)衛生管理、安全管理、品質管理について 4)施設、設備管理について 5)原価管理について 6)栄養教育について 4　実習課題への取り組み				
授業の留意点	学外実習は、実習施設の指導者・職員・施設利用者の方々に様々な協力をいただくことによって成り立っている。 事前準備を確実に行い、積極的な姿勢で実習に臨むこと。				
学生に対する評価	実習施設指導者からの評価（50点）および事前事後の取り組み状況（50点）により評価する。				
教科書（購入必須）	松崎政三・名倉秀子『全施設における臨地実習マニュアル（給食経営管理・給食の運営）』建帛社				
参考書（購入任意）					

科目名	臨床栄養学臨地実習Ⅰ				
担当教員名	武部　久美子				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	医療施設において管理栄養士の指導のもと、実践活動について学ぶ。				
学習到達目標	Ⅰ　医療における管理栄養士の役割を理解する。 1. 対象者の療養生活を支援する管理栄養士の役割と機能について説明できる。 Ⅱ　医療施設における栄養過程の展開および食事療養に必要な基本的知識、技術を理解する。 1. 対象者の特性に応じた栄養過程の展開を理解する。 2. 入院時食事療養の実際を説明できる。 Ⅲ　管理栄養士を目指す学生として、自覚と責任を行動で示すことができる。				
授業の概要	1. 医療施設において、管理栄養士の実践活動について学ぶ。 2. 患者、家族や多職種との関係を円滑に進めることの重要性について学ぶ。 3. 実習での経験を通して、適切な栄養ケアの実施に必要な専門的知識および技術の統合・発展を図る。				
授業の計画	実習方法　臨床栄養学臨地実習Ⅰプログラムに沿って、各実習施設において、実習指導者の指示のもと実施する。				
授業の留意点	3年前期までの学習を統合する重要な実習です。管理栄養士としての自己課題を明確にし、実習に臨むこと。 また、臨地実習は事前の準備が重要です。既習の各科目を単に振り返るのではなく、栄養ケアへ活かすことを考えながら準備をすること。				
学生に対する評価	実習指導者からの評価および事前・事後の取り組み、実習内容をもとに実習目標の達成度を総合的に評価する。 【事前学習30点、実習状況40点、事後学習30点】				
教科書（購入必須）	別途、指示する。				
参考書（購入任意）					

科　目　名	臨床栄養学臨地実習Ⅱ				
担当教員名	武部　久美子				
学年配当	4年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	
実務経験及び授業内容	臨床栄養臨地実習Ⅰを踏まえ、医療施設において管理栄養士の指導のもと、実践活動について学ぶ。				
学習到達目標	臨床栄養学領域で習得した知識・技術・態度の統合・発展をはかり、医療現場で実践されている栄養管理について理解する。 1. 医療における管理栄養士の専門性について理解し説明できる。 2. 栄養ケアマネジメントの実際を理解する。 3. 傷病者に対する栄養学的課題を抽出し、栄養ケアプランが作成できる。 4. チーム医療、ＮＳＴの実際を理解し、患者および医療スタッフと適切なコミュニケーションがとれる。				
授業の概要	三年次の臨床栄養学臨地実習Ⅰを踏まえ、臨床現場におけるより実践的な知識・スキルを学び取る。 臨地実習の事前学習に十分な時間をかけ準備する。 自主研究テーマを設定し、テーマに特化した学びを深める。				
授業の計画	実習方法　実習施設での実習プログラムに基づき、実習指導者の指導のもとに実施される。				
授業の留意点	臨床領域の管理栄養士を目指す学生向けのプログラムである。 三年次までに学んだ知識・スキルを統合し実践的に学習する。 実習に向けての目標を明確化し、主体的な取り組みを期待する。				
学生に対する評価	【事前・事後の取り組み　50点、　実習状況　50点】 詳細については授業の際に説明する。				
教科書（購入必須）	特に指定しない。				
参考書（購入任意）					

科目名	公衆栄養学臨地実習				
担当教員名	笠井　寛和				
学年配当	4年	単位数	1単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	道立保健所及び市町村保健センターにおいて、専門職指導者のもと、地域における公衆栄養アセスメント及び公衆栄養プログラムについて学び、行政機関における管理栄養士の役割について指導する科目				
学習到達目標	保健所または保健センターなどにおいて、地域における QOL の向上や生活習慣の改善を考えた健康づくりの推進や公衆栄養活動を理解し、管理栄養士の役割および業務について実習する。また、健康づくり・栄養・食生活情報を収集・分析し、総合的な評価・判定について学ぶ。さらに、地域の特性をふまえた事業内容や方法の実際、地域住民に応じた公衆栄養プログラムの作成・実施・評価および総合的なマネジメントに必要な事項の実際を学習する。				
授業の概要	実習先での学習を中心に、事前の書類作成、自らの課題設定、地域についての学習、実習終了後のふりかえりと自己評価を行う。				
授業の計画	各実習施設での実習プログラムに沿って、実習指導者の指示のもと実施				
授業の留意点	実習先では、対象の視点に立った支援とは何かについて考え、他職種との連携や社会人としての責任ある行動をとることについて理解を深める。				
学生に対する評価	臨地実習に関わる書類作成（20点）及び臨地実習先の評価（80点）で評価する。				
教科書（購入必須）	・公衆栄養学　（古野純典・吉池信男・林宏一編集、南江堂） ・公衆栄養学実習　第二版－事例から学ぶ公衆栄養学プログラムの展開－　（手嶋哲子、田中久子編集、同文書院）				
参考書（購入任意）	・国民衛生の動向（厚生統計協会） ・栄養調理六法（新日本法規） ・日本人の食事摂取基準[2020年版]（著者、出版社等未定） ・国民健康・栄養の現状―平成29年厚生労働省国民健康・栄養調査報告より―（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所監修、第一出版）				

科　目　名	栄養教育実習				
担当教員名	黒河　あおい				
学年配当	4年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修	資格要件	教職(栄養)：必修
実務経験及び授業内容	実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解させ、実習校指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行い、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解させるための科目				
学習到達目標	実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解する。 指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行う。 また、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解する。				
授業の概要	実習では学校経営等について理解し、児童および生徒への個別的な相談・指導の参観・補助、教科・特別活動や給食時間等における指導の参観・補助および食に関する指導案の立案作成や教材研究を行う。 また、校内の連携・調整の参観・補助や家庭・地域との連携・調整等の参観・補助を行う。				
授業の計画	1週間の実習 学校経営、校務分掌、食に関する指導および学校給食の学内での位置づけについての理解 児童および生徒への個別的な相談、指導の実習 児童および生徒への教科・特別活動等における指導の実習 食に関する指導の連携・調整の実習				
授業の留意点	必要な準備を整えて実習に臨むこと。 健康管理に十分に留意して実習に専念すること。 実習生であっても学校の構成員の一員である教員としての自覚をもって行動すること。				
学生に対する評価	実習内容（50点）、提出物（30点）、出席状況（20点）などから総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	栄養教育実習日誌（担当教員作成） 教育実習の手引き（第6版）学術図書出版社 教育課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。				
参考書（購入任意）					

看護学科

科目名	基礎看護学実習Ⅰ				
担当教員名	齋藤千秋・畑瀬智恵美・鈴木朋子・岩田直美				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	実習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、臨地において、健康障がいを持つ対象者とのかかわりやケアを通じて、入院している対象者の心身の状態、生活の場である療養環境について学習し、看護の目的や役割について教授する科目				
学習到達目標	1. 病院の役割・機能、医療の場で働く看護者および他職種の専門職としての役割を理解する。 2. 対象者とのかかわりを通して、入院生活の過ごし方について知り、健康時の日常生活との相違や困難さについて理解する。 3. 対象者への援助を通して、健康の回復・維持・増進のために必要な看護援助を根拠に基づいて行う必要性を理解する。 4. 看護学生として、チームの一員としての責任を自覚し、自律した行動をする。 5. 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。				
授業の概要	健康障がいを持つ対象者とのかかわりやケアを通して、入院している対象者の心身の状態、生活の場である療養環境について学習し、看護の目的や役割について理解する。				
授業の計画	実習内容 1. 実習施設内を見学し、主要部署とその役割について説明を受ける。 2. 実習病院の特徴や看護部の方針等についてオリエンテーションを受ける。 3. 療養環境について、病棟の見学とオリエンテーションを受ける。 4. 看護援助の実践に際しては、看護師・教員の説明や助言のもとに行う。 5. カンファレンスで学習内容を整理し、学びを共有する。 6. 学内演習では体験や学びを共有し、学びをまとめ、自己の課題を明確にする。 詳細は、実習要項を参照 ※実習目標に基づき、臨地実習4日間、学内演習1日間の計画を予定している。 ※詳細な実習計画・資料等は、実習開始前オリエンテーションで説明する。 ※実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。				
授業の留意点	本授業科目は、看護学生とし医療の現場で体験的に学ぶ学習であるので、医療の現場で学ぶ者として自覚を持ち、対象や医療従事者の信頼を得られる行動を心がけ実習することが必要である。 実習課題到達のためには、実習オリエンテーションに出席すること・事前学習が必要である点を十分認識して実習に臨むことが求められる。 本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅰの単位修得、ヘルスアセスメント、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅱの単位修得見込みである。 計画的に学習し、体調を整えて実習に臨みましょう。				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は実習記録一式が期限内に提出されることを前提とする。				
教科書（購入必須）	実習要項や必要な実習課題提出記録用紙等の関係資料は実習前に配布されるので、各自が既習科目の教科書を活用し、必要な事前準備を行うこと。				
参考書（購入任意）	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。				

科目名	基礎看護学実習Ⅱ				
担当教員名	畑瀬智恵美・齋藤千秋・鈴木朋子・岩田直美				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、臨地において、既習の知識や技術を基に看護の対象、療養環境、人間関係を形成するためのコミュニケーション、看護ケアをもとに、対象に必要な看護を理解し、その対象の看護上の問題（健康問題）を解決するための看護過程を展開し、同時に問題解決思考能力を教授する科目				
学習到達目標	1. 対象者とコミュニケーションをとることができる。 2. 対象者を統合的に理解し、看護過程を展開できる。 3. 医療チームの一員として、看護師の役割および医療・福祉チームにおける連携・協働について学ぶことができる。 4. 看護の専門性、学問を探求する学習者として自己洞察し、今後の学習課題を明確にできる。 5. 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。				
授業の概要	看護学生として初めて一人の対象を受け持ち、健康に障がいをもつ人を理解すると共に、健康障がいをもつ対象の健康問題を解決するための看護過程を展開し、看護を実践する思考プロセスを学ぶ。また、他の専門職と連携・協働するチーム医療を学ぶ。同時に看護職に求められる知識・技術・態度についての学びを深める。				
授業の計画	実習内容 ＊ 実習目標に基づき、実習期間は2週間を予定している。 ＊ 成人期・老年期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 ＊ 対象患者に実習依頼し、受け持つことに同意と署名を受ける。 ＊ 学生が立案した看護計画に基づいて実施する援助は、主に生活援助技術である。 詳細は、実習要項を参照 ＊ 詳細な実習計画・資料等は、実習開始オリエンテーションで説明する ＊ 実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である.				
授業の留意点	1. 既習科目（専門基礎科目、専門科目）および看護過程の学習したことを復習し、実習に臨んでください。また、実習で体験する内容について事前学習を十分行ってください。学習は計画的に行い、体調を整えて実習に臨みましょう。 2. 看護実践を通じて専門職業人を目指す看護学生としての責任を自覚し、看護の学習者として、主体的、自律的、真摯な姿勢で臨んでください。 3. 本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、ヘルスアセスメント、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していることである。基礎看護技術Ⅲについては、単位修得見込みである。				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は、実習記録一式が期限内に提出されたことを前提とする。				
教科書（購入必須）	既習科目（専門基礎科目、専門科目）および1年次に既習の教科書、参考図書、授業資料、その他全てを活用する。				
参考書（購入任意）	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する.				

科目名	成人看護学実習Ⅰ				
担当教員名	長谷部佳子　南山祥子　本吉美也子　中澤洋子				
学年配当	3年	単位数	3単位	開講形態	実習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学習到達目標	周手術期にある成人期の患者とその家族に対する看護を、看護過程の展開を通して実践し、看護に必要な基礎的知識･技術･態度を学ぶ。健康障害の急性期にある対象を全人的にとらえ、外科的療法によってもたらされる心身への侵襲を最小限にとどめ、回復するための看護援助の実際を学ぶ。さらに、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。				
授業の概要	周手術期にある患者を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。 外科的療法を受ける患者への看護援助の実施、看護の継続性、関係職種間の連携と協働、看護職者としての姿勢を学ぶ。				
授業の計画	実習目標 1. 周手術期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2. 健康障害が患者および家族に及ぼす生活の変化を理解した援助的人間関係を形成することができる。 3. 急性期から回復期に至る対象とその家族に対し、生活の視点から回復促進のための働きかけができる。 4. 保健医療福祉チームの一員としてその役割を理解し、看護の継続性、関係職種間の連携・協働について理解することができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。 実習内容　詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習方法　詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習場所　名寄市立総合病院 実習期間　3週間				
授業の留意点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論Ⅰ）で学んだ知識･技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨んでください。				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準じる。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	藤野彰子・長谷部佳子（編著）「看護技術ベーシック」サイオ出版				

科　目　名	成人看護学実習Ⅱ				
担当教員名	長谷部佳子　南山祥子　本吉美也子　中澤洋子				
学年配当	3年	単位数	3単位	開講形態	実習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学習到達目標	慢性的な健康障害をもつ成人期の患者を受け持ち、看護過程を展開し、その看護実践を通して疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしく過ごせるような支援の実際を学ぶことができる。さらに看護の継続性、関係職種との連携と協働の実際について理解することができる。				
授業の概要	健康障害の慢性期にある成人期の患者を1名受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。そのなかで、疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしい生き方を支えるための看護の実際を学ぶ。また、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。				
授業の計画	実習目標 1. 健康障害の慢性期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2. 人間関係の重要性を認識し、健康障害の慢性期にある患者とその家族の心理的状態に応じた関わりをもつことができる。 3. 患者とその家族がその人らしく過ごせるように、生活の視点から教育指導を含む支援活動を考え、実践することができる。 4. 社会復帰に向けて、必要な保健医療・福祉サービスなど関係職種との連携・協働について理解することができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。 実習内容 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習方法 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習場所 名寄市立総合病院・名寄三愛病院 実習期間 3週間				
授業の留意点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論Ⅱ）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨んでください。				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）					

科目名	老年看護学実習				
担当教員名	段亜梅・澤田知里・上原主義				
学年配当	3年	単位数	4単位	開講形態	実習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容	看護師として病院での勤務経験をもつ教員が、老年看護の基本的な考え方、高齢者との関わり方、看護の展開方法、ケアの方法などを、実践を踏まえながら指導する。				
学習到達目標	1. 老いと病による障害を持ちながら、自己の力を最大限に活用しながら生活している高齢者の理解を深めることができる。 2. 高齢者個人の老いと病から引き起こされる身体的・精神的・社会的変化に対して、既存の知識・技術と結びつけながら アセスメントし、看護計画・実践・評価の過程を効果的に展開できる。 3. 高齢者対象にした保健医療福祉システムの現状を理解し、保健医療福祉の連携と看護の役割について建設的に考えることができる。				
授業の概要	高齢者は医療施設だけでなく、保健福祉施設から在宅などさまざまな場で生活している。多様な健康状況下にある高齢者の特性を理解し、学内で学んだ知識・技術、専門職としての態度と倫理観を看護実践の場において統合的に応用する。				
授業の計画	実習方法 老年看護学実習は、グループホーム実習1単位と通所サービス実習1単位を組み入れた計2単位、病院・施設主体の実習2単位で構成される。 1. 実習目標・計画等の詳細は「老年看護学実習要項」として別途説明・配布する。 2. グループホーム、通所サービス実習(2週間) ・地域密着型施設を利用している高齢者とかかわりながら、グループホームや在宅生活維持に向けた生活のありようについて学ぶ。さらに、高齢者の健康の維持・増進の取り組みと連携について学ぶ。 ・認知症高齢者の心身状態と生活上の困難に対応する看護の特徴について学ぶ。 3. 病院・施設実習（2週間） 1名の患者/利用者を受け持って、看護過程を展開しながら看護の実践や評価を行う。受け持ち患者/利用者は65歳以上の健康障害や生活に支障のある者を予定している。 ＊実習場所 ＊事前ガイダンスや課題があります				
授業の留意点	・本科目は老年看護学概論、老年看護活動論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修できない。 ・インフルエンザワクチン接種の要請を受ける場合がある。罹患の場合は実習中断となる。 ・健康管理に留意すること。				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）					

社会福祉学科

科目名	ソーシャルワーク現場実習Ⅱ				
担当教員名	佐藤(み)・髙阪・永嶋・堀・長谷川(武)・宮﨑・江連・嘉村				
学年配当	3年	単位数	4単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容	社会福祉領域の実践現場において実践経験を有する実習指導者（社会福祉士）がソーシャルワーク実践について指導を行う。また、社会福祉領域の実践現場における実践経験を有する教員が、週1回巡回指導もしくは帰校日指導を行う。				
学習到達目標	実践力の高い社会福祉士を養成する観点から、2年間で培ったソーシャルワークの理念、知識、技術等をソーシャルワーク現場実習の場で実際に活用できるようにします。また、現場実習を通じて社会福祉士（ソーシャルワーカー）としての職業倫理等を総合的な能力として身につけることができるようにします。加えて、現場実習で学んだ職場や地域の課題を具体化できるような社会福祉士（ソーシャルワーカー）としての資質を磨いていきます。				
授業の概要	指定されたソーシャルワーク現場実習施設においてソーシャルワーク実習を行います。実習期間は23日間180時間以上です。なお、実習期間中は現場の実習指導者の指導を受けるほか、ソーシャルワーク現場実習指導と連動して、現場実習担当教員の個別指導を受けることとなります。				
授業の計画	これまで培ったソーシャルワークの知識、技術、倫理等を、社会福祉現場で実践的、総合的に活用し、自らの到達度を分析するとともに、今後の課題を明確にしていきます。 指定された社会福祉施設及び機関において、以下のことを習得していきます。 1 基本的コミュニケーション、人間関係の形成 2 利用者理解とその需要の把握 3 利用者やその関係者（家族、親族、友人等）との援助関係の形成 4 利用者とその関係者（同上）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む）とその評価 5 他職種連携を始めとする支援におけるチームアプローチの実際 6 社会福祉士（ソーシャルワーカー）としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業等に関する規定への理解及び組織の一員としての役割と責任への理解 7 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 8 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解及び具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・理解に関する理解				
授業の留意点	これまで学んだ専門的知識や技術等を実際に活用し、相談援助業務（ソーシャルワーク）等に必要な資質や能力を習得します。さらには具体的体験や相談援助活動を通して、これまでの理論を体系化していきます。その際に、実習担当者や実習担当教員の個別指導でさらに理解が深まるようにします。				
学生に対する評価	現場の実習担当者の評価を参考に、実習担当教員が総合的に判断し、評価します。				
教科書（購入必須）	必要に応じて提示します。				
参考書（購入任意）					

科目名	精神保健福祉援助実習				
担当教員名	松浦智和・木下一雄・浦田泰成				
学年配当	4年	単位数	5単位	開講形態	実習
開講時期	通年	必修選択	選択	資格要件	精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的・実際的に理解し実践的な技術等を体得する。精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己課題等を把握し、総合的に対応できる能力を習得する。総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及び連携の具体的内容を実践的に理解する。				
授業の概要	配属する実習現場において自己の実習課題や記録、実習指導者のスーパービジョンを通して理解を深めるように訪問指導等によってふりかえりを行う。				
授業の計画	① 精神科病院等において、患者への個別支援を経験し、実習指導者による指導を受ける。 ・入院時・急性期の患者及びその家族への相談援助 ・退院・地域移行支援に向けた患者及びその家族への相談援助 ・他職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 ・療養中、通院中の日常生活や社会生活上の問題に関する患者・家族への相談援助 ・地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助 ② 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等の実習を通して下記の事項を経験し、実習先の実習指導者の指導を受ける。 ・利用者、その他の関係者、関係機関・組織との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ・利用者理解とニーズ把握、支援計画の作成、支援関係の形成 ・利用者やその関係者への権利擁護及び支援と評価 ・精神医療・保健・福祉における他職種連携とチームアプローチの実際 ・精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の理解 ・施設・機関等の就業規定の理解と組織の一員としての役割と責任の理解 ・施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際				
授業の留意点	精神保健福祉援助実習は、実習巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況について把握することとなる。 実習配属後は個別指導を行うため、日々の記録として、実習日誌や支援対象者の個別支援計画や実習指導者とのスーパービジョン機会を重視して臨むことが重要である。				
学生に対する評価	実習日誌の提出や課題の提出、指導者の実習評価、自己評価等を総合的に評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）					

科目名	教育実習(高校公民・高校福祉)				
担当教員名	加藤隆・石川貴彦・大坂祐二				
学年配当	4年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	教職(公・福)：必修	資格要件	教職(公・福)：必修
実務経験及び授業内容	各学校での教育実習を通じて、現場の実習指導者の指導のもと、教育の実際を学び、確実な学級経営や授業などの教育実践ができる力を身につける。特に、観察実習を中心に、教科指導力の向上を図る。				
学習到達目標	高等学校において、①大学で学んだ知識や理論、技術を具体的に展開できる、②授業や生徒指導の中に知識等を結びつけて、生き生きとした教育を展開できる、③教育実習を通じて、自己の教員としての適性や能力を発見したり、判断したりできることを、実習の到達目標とする。				
授業の概要	教育実習（高等学校） 高等学校の教員免許を取得する者は、高等学校において 2 週間の教育実習が必要である。教育実習事前指導を受けた後、教育現場での実習に臨む。また、研究授業については、道内の実習校に限り、教職担当教員が訪問し直接指導を行う。				
授業の計画	1　教育実習（第1週）　　実習校のプログラムによるが、概ね以下のような内容になる。 着任式、講話、学級経営、教材研究、授業観察　等 2　教育実習（第2週） 学級経営、教材研究、授業実習、研究授業、離任式　等				
授業の留意点	教育実習途中での履修放棄は絶対にしないこと。あらゆる場面に直面しても、最後まで責任を持って実習をやり通すこと。				
学生に対する評価	各実習校において取組を総合的に評価し、その結果を踏まえて教職担当教員が最終的に評価する。				
教科書（購入必須）	使用する教科書等については、実習校および実習教科により異なるので、事前訪問や連絡を通じて、各自準備しておくこと。				
参考書（購入任意）					

科目名	障害児教育実習				
担当教員名	矢口明				
学年配当	4年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	後期	必修選択	教職(特支)：必修	資格要件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容	障がいを有する子どもたちが在籍している特別支援学校において実習を行う。現場の実習指導者の指導のもと、特別支援学校の現状にふれることにより、特別支援学校教諭にとって必要不可欠な「子どもたちの障がい（特性）理解」「障がいに応じた適切な関わり」について学ぶ。				
学習到達目標	教育においては、高い実践的指導力が求められている。教育実習では、幅広い知識と大学における経験とを十分に発揮し、具体的な経験を積む。職業としての魅力を十分に理解し、自らの課題を真摯に受け止めることを通して、内省的実践者としての態度を育成することを目指す。				
授業の概要	教育実習は、学生の関心の高い特別支援学校（北海道内知的障害養護学校、肢体不自由養護学校、高等特別支援学校、道外自閉症特別支援学校）で行うようにし、教員として必要な知識・技能・態度及び習慣を培う。 実習の成果を内省的にととらえることを通じて、自己の適性や職業に対する意欲を改めて把握し、進路選択や進路決定にいかす有用な機会ともなる。				
授業の計画	各実習先の指導教員の監督・指導に基づいて、以下の内容を中心に実習する。 1. 教育講話の聴講 2. 学習場面・生活場面の観察 3. 学習場面・生活場面の部分的指導 4. 授業計画の作成 5. 教材研究 6. 授業の実施 7. 研究授業（指導案作成・教材研究・授業・反省会）				
授業の留意点	基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、自らの課題意識と開発的な授業提案を持つことが望ましい。				
学生に対する評価	実習先の評価及び研究授業の評価を総合的に判断して評価する。				
教科書（購入必須）	教育実習日誌（第3版）、学術図書出版社、2011年				
参考書（購入任意）					

社会保育学科

科目名	障害児教育実習				
担当教員名	安永啓司・藤川雅人・奥村香澄				
学年配当	4年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	通年	必修選択	選択	資格要件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	国立大学附属特別支援学校3校での教育実習生への指導経験を生かした指導による科目				
学習到達目標	特別支援学校における実習を通じて、それぞれの障害領域に対応した指導力及び、校内・校外におけるコーディネート能力など教員としてふさわしい能力を身につける。				
授業の概要	各支援学校において、指導案の作成、研究授業などを行う。				
授業の計画	・当該障害種における教育の概要（講義及び見学、活動参加実習）と教員の専門性及び服務 ・幼稚部から高等部及び専攻科を通した、教育の一貫性と自立支援の実際（講義及び見学） ・各教科･領域の授業参観 ・配属学級における学級経営の視点と方法 ・幼児、児童、生徒の実態の把握 ・個別の指導計画と学級経営を元にした指導計画の作成 ・各教科･領域の指導計画の作成 ・実習授業 ・研究授業 ・実習のまとめ				
授業の留意点	実習の所定時間はすべて出席が求められるため、実習中の欠席は認められないので注意すること。				
学生に対する評価	学習指導、生活指導、実習態度について、実習校担当者が評価し、事前･事後指導の評価と総合して評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）					

科目名	教育実習				
担当教員名	棚橋裕子・今野道裕				
学年配当	3年	単位数	4単位	開講形態	実習
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	幼稚園における4週間の実習を通して、現場の幼稚園教諭の指導の下、幼児理解を基底とし、実践力の育成や保育現場での具体的な仕事の内容や保育者の役割について学ぶ。				
学習到達目標	1. 幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
授業の概要	実習を通して幼稚園の役割や機能を理解し、直接対象にかかわりながら保育について総合的に学ぶ。				
授業の計画	1　幼稚園の役割と機能 (1)幼稚園の生活と一日の流れ (2)幼稚園教育要領の理解と保育の展開 2　子ども理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助やかかわり 3　保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育内容 (4)子どもの健康と安全 4　保育の計画、観察、記録 (1)指導計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5　専門職としての幼稚園教諭の役割と職業倫理 (1)幼稚園教諭の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)幼稚園教諭の役割と職業倫理				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（実習指導、初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。				
学生に対する評価	実習先での評価表を中心に、実習指導の受講状況、提出物等を加味して総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	テキスト・参考文献は、実習指導のものを参照				
参考書（購入任意）					

科目名	保育実習Ⅰ				
担当教員名	傳馬淳一郎・宮内俊一・長津詩織・義基祐正				
学年配当	3年	単位数	4単位	開講形態	実習
開講時期	通年	必修選択	選択	資格要件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	〔施設実習〕学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員ならびに児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目〔保育所実習〕保育所での保育経験を持つ教員が指導を行い、保育士としての役割、保育の方法など、実習を通して学ぶ科目				
学習到達目標	1. 児童福祉施設等（保育所および保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
授業の概要	児童福祉施設等（保育所、居住型児童福祉施設等または障がい児通所施設等）で所定の期間実習を行う。児童福祉施設等の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。職員間の役割と連携について学ぶ。記録を通じて省察し、自己評価する。子ども家庭福祉や社会的養護の理解を深める。				
授業の計画	＜保育所実習＞ 1. 保育所の役割と機能　(1) 保育所の生活と一日の流れ　(2) 保育所保育士指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解　(1) 子どもの観察とその記録による理解　(2) 子どもの発達過程の理解　(3) 子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境　(1) 保育の計画に基づく保育内容　(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容　(3) 子どもの生活や遊びと保育内容　(4) 子どもの健康と安全　(5) 保護者支援 4. 保育の計画、観察、記録　(1) 保育課程と指導計画の理解と活用　(2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理　(1) 保育士の業務内容　(2) 職員間の役割分担や連携　(3) 保育士の役割と職業倫理 ＜居住型児童福祉施設等及び障がい児通所施設等における実習＞ 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2. 子どもの理解　(1) 子どもの観察とその記録　(2) 個々の状態に応じた対応 3. 養護内容・生活環境　(1) 計画に基づく活動や援助　(2) 子どもの心身の状態に応じた対応　(3) 子どもの活動と生活環境　(4) 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録　(1) 支援計画の理解と活用　(2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理　(1) 保育士の業務内容　(2) 職員間の役割分担や連携　(3) 保育士の役割と職業倫理				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。				
学生に対する評価	実習先での評価 50 点、受講状況 20 点、提出物等 30 点。				
教科書（購入必須）	河邉貴子・鈴木隆編著『保育・教育実習―フィールドで学ぼう―』同文書院※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）				
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 小野澤昇・田中利則編者『福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房				

科目名	保育実習Ⅱ				
担当教員名	傳馬淳一郎・長津詩織				
学年配当	4年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	保育士：選択
実務経験及び授業内容	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、保育所において保育経験を持つ教員が指導を行い、保育士としての役割、保育の方法など、実習を通して学ぶ科目				
学習到達目標	1. 保育所の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援や地域への子育て支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己課題を明確にする。				
授業の概要	保育所で所定の期間実習を行う。保育所の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、指導計画の作成、実践、評価を通して保育士としての実践力を養う。実習のまとめ、評価を通して、保育士としての自己課題を明確にする。				
授業の計画	1　保育所の役割や機能の具体的展開　(1) 養護と教育が一体となって行われる保育　(2) 保育所の社会的役割と責任 2　観察に基づく保育理解　(1) 子どもの心身の状態や活動の観察　(2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3　子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携　(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者及び地域の子育て家庭への支援 4　指導計画の作成、実践、観察、記録、評価　(1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5　専門職としての保育士の役割と職業倫理　(1) 多様な保育の展開と保育士の業務　(2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6　自己課題の明確化				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。				
学生に対する評価	実習先での評価 50 点、受講状況 20 点、提出物等 30 点。				
教科書（購入必須）	河邉貴子・鈴木隆編著『保育・教育実習―フィールドで学ぼう―』同文書院※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院 （※保育実習指導Ⅰ・幼稚園教育実習指導と共通）				
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房				

科目名	保育実習Ⅲ				
担当教員名	宮内俊一・義基祐正				
学年配当	4年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	保育士：選択必修
実務経験及び授業内容	学校現場で社会福祉士（SSW）として従事した教員ならびに児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目				
学習到達目標	1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 子どもの施設利用に至る経過について、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。				
授業の概要	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して学び、保育士としての専門性、自己の課題を明確化する。また、子どもの日常生活やケースファイル等を通して施設入所に至る背景や生育史及び現状を理解し、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅰ（施設実習）を踏まえてさらに深める。				
授業の計画	1　児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2　施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3　保育士の多様な業務と職業倫理 4　保育士としての自己課題の明確化				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関し ては十分に留意すること。各施設の留意事項を順守すること。				
学生に対する評価	実習先での評価 50 点、受講状況 20 点、提出物等 30 点。				
教科書（購入必須）	河邉貴子・鈴木隆編著『保育・教育実習―フィールドで学ぼう―』同文書院 小林育子他編著『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』萌文書林 相馬和子・中田カヨ子編著『実習日誌の書き方』萌文書林 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』				
参考書（購入任意）					